

● 高野公彦選

暑き夏忘れてならない「四つの日」我はひも
じさ空襲に耐えた (豊田市) 近藤 敬二
ご近所の人の減るのに反比例いたたく野菜の
多くなりゆく (高知県) 原 真由美
「ちなみに」と言葉を継いで話し出す生後十
年小四男子 (相模原市) 津田 典子
炎天の奈良公園をめぐり来てミストシャワー
に鹿と佇む (豊中市) 入山 英介
☆大の字になって寝ている君がいて結婚て面白
いものと知る (富山市) 松田 梨子
故郷を戦場にされた安青錦それでもめげず賜
杯勝ち取る (徳島県) 一宮 一郎
毎日が朝令暮改の外つ国の為政者たちの戦争
ごっこ (尾張旭市) 小野 薫
打ち水はボトルの2リットル瓶でベランダに
撒き涼を楽しむ (箕面市) 清水千鶴子
母の亡き痛みを痺れさすほどの酷暑のなかを
買い物に行く (厚木市) 本庄 伸子
癌病むと連絡絶えし友垣に一筆せむか七月二
三日 (東京都) 上田 国博

【評】1首目、戦時中の空腹感と空襲を思い出しつつ、四つの日（6月23日と8月6日、9日、15日）の大切さを思う。2首目、嬉しいような寂しいような複雑な気持ち。3首目、十歳なのに大人びた話し方をする子供ね、と感心する作者。

● 永田和宏選

辻回し市電の上の電線を竿で上ぐるも絵なり
し昭和 (加東市) 藤原 明
天皇が女性であってなぜ悪い居酒屋談義は庶
民の本音 (横浜市) 島巡 陽一
あきれてはいられぬ「皇統二千六百年」本気
で語る議員に (岡崎市) 兼松 正直
支持率が下がると「栄誉賞」与ふ町には削り
水が涼やかに (京都市) 森谷 弘志
☆小田原へ来てから買った自転車が錆びる意外
と海に近く (小田原市) 中村 玲子
霧深きカールのなだり占めて咲くコバイケイ
ソウの穂波の白し (長崎県) 稲垣 妙子
神様の計らい楽し笑顔なる赤ちゃんやマルと
二十歳のメッシ (仙台市) 沼沢 修
「惚れてたさ、だから女房にしたんだ」と居
酒屋に聞き後ろ振り向く(舞鶴市) 吉富 憲治
コンセント抜かれぬやうにA Iも相手見なが
ら言葉を選ぶ (相馬市) 根岸 浩一
申し込みは二次元コードでと広報にそれでは
参加諦める人も (長久手市) 佐藤 昌江

【評】藤原さん、祇園祭の辻回し。市電が走っていた頃の京都では、本当に竿で電線を持ち上げていた。それも絵になった。二～三首、皇室典範だけでなく、強引で拙速な国会運営が目に見える。取り返しのつかない日本の未来の暗雲を予感させる。